

血液・尿検査用クレアチニンキット

エクティア[®]XL '栄研' CRE-V

はじめに

クレアチニンは筋、神経内でクレアチンリン酸から直接に、またクレアチンの脱水によって生成され、腎を介し終末代謝物として体外に排泄されます。血中のクレアチニンは腎不全等で高値を示し、筋ジストロフィー、尿崩症等で低値を示します^{1~2)}。

エクティアXL '栄研' CRE-Vは、酵素法による血清、血漿又は尿中のクレアチニンを測定する試薬です。



特徴

- 本法は酵素法です。
- 使いやすい液状試薬です。
- 共存物質の影響がほとんどありません
(ドブタミンの影響を軽減しています)。

包装単位・貯蔵方法・有効期間

製品名	R1/R2	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間	適用機種例
エクティア[®]XL '栄研' CRE-V	試薬-1	60mL×4	G-QS11	2~8℃	1年間	日立7180 AU680 BM6050
	試薬-2	30mL×4	G-QS12			
	試薬-1	80mL×4	G-QS13			TBA120FR
	試薬-2	40mL×4	G-QS14			
	試薬-1	55.6mL×2	G-QS15			日立LST
	試薬-2	22.0mL×2				

※ポトルタイプ日立LSTのみ試薬-1, 2のセット販売となります。

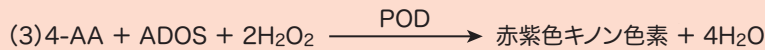
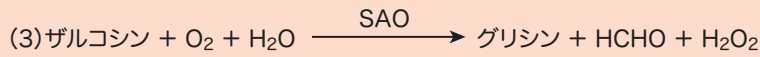
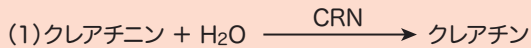
(別売標準)

製品名	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間
CREキャリブプレートXL '栄研'	10mL×1	G-QS90	2~8℃ (密栓厳守)	2年間

測定原理

<第1反応> 試薬-1の添加により反応(2)、(3)が進行し、検体中のクレアチンおよびザルコシンが消費されてH₂O₂を生成します。このH₂O₂は、カタラーゼにより消去されます。

<第2反応> 第1反応により検体中のクレアチンおよびザルコシンを消去した後、試薬-2を添加すると反応(1)~(4)が進行して赤紫色のキノン色素が生成し、これを比色してクレアチニン濃度を求めます。



使用目的

血清、血漿又は尿中のクレアチニンの測定

測定範囲

血清・血漿検体：0.04 ~ 100 mg/dL

尿検体：0.1 ~ 300 mg/dL

基礎データ(血清)³⁾

測定機器：日立7180形自動分析装置

■ 同時再現性

単位:mg/dL

	試料1	試料2	試料3
N	20	20	20
Mean	0.951	1.080	4.657
S.D.	0.01	0.01	0.01
C.V.(%)	0.76	0.74	0.25
Max.	0.96	1.09	4.68
Min.	0.94	1.05	4.64
Range	0.02	0.04	0.04

■ 妨害物質

下記濃度まで測定値への影響は認められませんでした。

アスコルビン酸 200 mg/dL

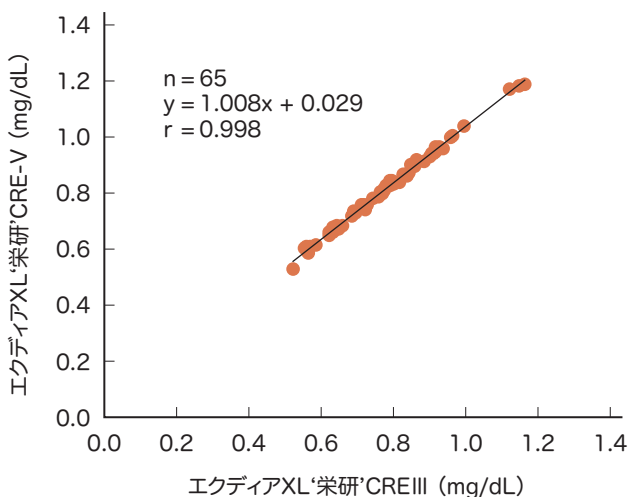
遊離型ビリルビン 50 mg/dL

抱合型ビリルビン 50 mg/dL

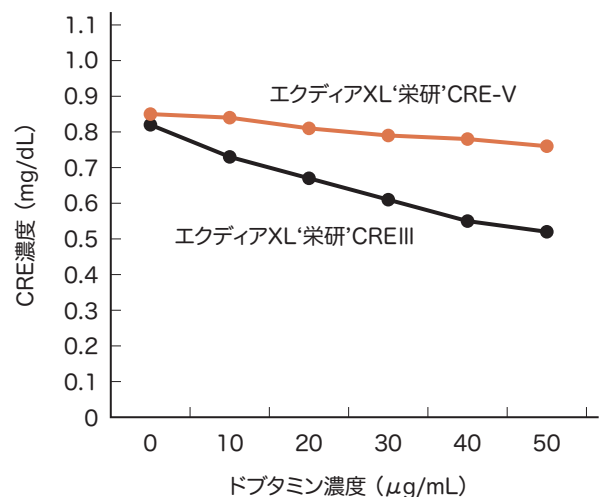
ヘモグロビン 500 mg/dL

乳ビ 3000 ホルマジン濁度

■ 相関性



■ ドブタミンの影響



主要文献

- 1) 佐々木 禎一:検査と技術, 15(3):259, 1987.
- 2) 金井 正光, 他:臨床検査法提要, 改訂第33版:426-429, 2010.
- 3) 社内データ

各試薬の使用上または取扱い上の注意については、製品添付文書及び使用説明書をご参照ください。